

2023年5月15日

早稲田大学

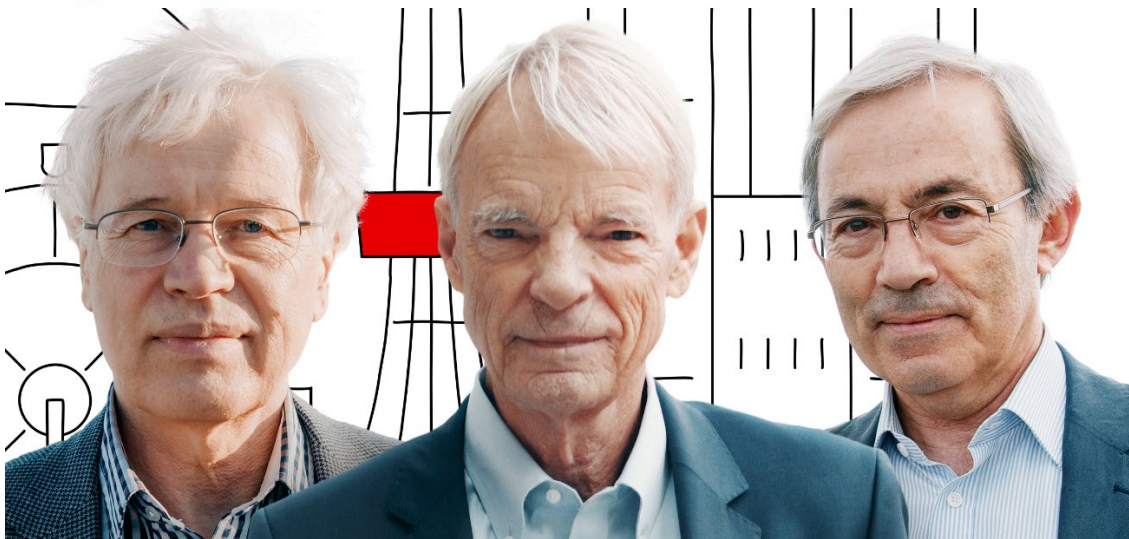
UBSグループAG

ノーベル経済学賞受賞者3名と未来のグローバル経済を語り合う

日本国内初の特別イベントを開催

Nobel Perspectives Live!

- Tokyo - June 5, 2023



早稲田大学は、日本など世界の主要な市場で事業を展開するグローバル金融機関 UBS との共催により、3人のノーベル経済学賞受賞者たち（別添参照）が未来のグローバル経済を語り合うシンポジウム“Nobel Perspectives Live!”を6月5日（月）に開催します。

【開催概要】詳細は Web サイトをご覧ください <https://www.waseda.jp/top/news/88855>

◆日時：6月5日（月）16:00～17:00 ※15:30～開場予定

◆場所：早稲田キャンパス 大隈記念講堂

<アクセス> <https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

◆登壇者：Bengt Holmström 氏

Michael Spence 氏

Sir Christopher A. Pissarides 氏

◆言語：英語 ※日本語による同時通訳はございません。

ますます世界的視野が求められる経済研究の分野において、ボーダーレスの叡智に触れる機会を得ることは学生にとって極めて重要です。早稲田大学は、ノーベル経済学賞受賞者が世界各地で公演活動を行う学術プログラム Nobel Perspectives を運営する UBS と協働し、我が国に初めて同プログラムを招致いたしました。

今回のイベントでは、自動化、AI、ロボティクスが労働力と世界の労働市場にどのような変化をもたらすかなどの現代的な経済課題のほか、日本経済が直面しているチャンスや課題、さらには次世代を担う人々が身に着けておくべきスキルなどにも言及する予定です。本イベントは早稲田大学の学生および教職員に対してのみ実施されるもので、経済学の世界の俊英が集うイベントの実施は国内大学では唯一となります。ノーベル学者の叡智に対峙することが、若き研究者たちの知的刺激となることを期待しています。

■本件に関するお問い合わせ先

早稲田大学国際部国際課 E-Mail: wint-americas@list.waseda.jp

UBS 広報部 Tel: 03-5208-6600 E-Mail: sh-ubs-japan-media-relations@ubs.com

■発信元

早稲田大学広報室広報課 Tel: 03-3202-5454 E-Mail: koho@list.waseda.jp

当日登壇予定ノーベル経済学賞受賞者 詳細

■ Bengt Holmström (ベント・ホルムストロム) 氏



フィンランド生まれの経済学者。契約理論への貢献によりオリバー・ハート氏とともに2016年のノーベル経済学賞を受賞。ホルムストロム氏の研究は妥当な報酬体系に関するもので、上場企業の CEO その他の上級経営職、若手社員との対比における年長従業員、同等に評価することが困難な複数の職務を担当する従業員（教師など）、そしてチームで働く従業員を対象としている。氏の研究は、コーポレートガバナンスに適用されるインセン

ティブを中心としてきた。近年は、金融市場の安定性、特に金融危機時における流動性の諸問題にも取り組んでいる。また、氏はフィンテックの将来、労働市場の変容、労働環境の変化についての意見も表明してきた。

1972年にフィンランドのヘルシンキ大学で理学士号を、米スタンフォード大学で1975年に理学修士号、1978年に博士号を取得。経済学教授および経済学・組織論教授として米イェール大学の教師陣に加わり、1985年には同大学のエドウィン・J.バイネック記念経営学教授に就任した。現在はマサチューセッツ工科大学（MIT）のスローン経営大学院に在籍しており、1997年には同大学の経済学教授に就任している。

■ Michael Spence (マイケル・スペンス) 氏



米国の経済学者。情報の流れの動態と市場の動きに関する研究につきジョージ・アカロフ氏、ジョセフ・E・スティグリッツ氏とともに2001年にノーベル経済学賞を受賞。ミクロ経済学における貢献でノーベル経済学賞を受賞したのちには、グローバルな課題に尽力した。その中で、世界銀行による、とあるプロジェクトに参加する。その課題は、成長のための枠組みを作り上げることであった。その答えは実はとても単純なものであるとス

ペンス氏は考えた。すなわち、世界経済、知識の獲得、テクノロジーの開発や投資に対しオープンな姿勢を持つ、ということだ。経済成長に最大の脅威となるのは格差の拡大、経済の無駄、政治・社会的結束の喪失であると氏は考える。大学教授としてのスペンス氏は、ビル・ゲイツ氏に最も大きな影響を与えた師としても知られている。

スペンス氏は米イェール大学、英オックスフォード大学、そして米ハーバード大学で学び、1972年、ハーバード在籍中に博士号を取得（Ph.D.）。ハーバードおよび米スタンフォード大学で教鞭をとり、1990年から1999年まではスタンフォード経営大学院の学部長も務めた。2010年には米ニューヨーク大学のレナード・N・スターン・スクール（経営大学院）教授に就任。現在は米外交問題評議会の特別客員フェローでもある。

■ Sir Christopher A. Pissarides (クリストファー・A・ピサリデス) 氏



雇用機会がある場合でも失業者がいるのはなぜなのかを分析した、失業理論における研究で 2010 年にノーベル賞を受賞。有利な縁故関係に恵まれた人や、適性に恵まれた人たちの労働市場における状況を研究。氏の研究は、労働、住宅、融資配分やその他の市場における、仲介を必要とする経済活動についてのその後の研究や政策の大きな部分を決定づけていった。

ピサリデス氏はまた、未来のテクノロジーについて、また、それが労働市場や労働環境にどのような変化をもたらすのかについても研究を進め、意見を表明してきた。氏は、雇用機会は将来減っていくであろうと考える。経済アドバイザーとしての氏は、政府に対し、労働者が再配分し再教育することを支援するよう訴える。そして、政策立案者は優れた公共サービス、優れたインフラ、そしてより低いレベルでの雇用の創出に対する支援を提供することが必要であると強調する。また、最上位の所得に対しより高い税率をかけ、低所得の職業に対しゼロパーセントの税率とすることや、特に片親世帯に対するベーシックインカムの導入をとなえてきた。キプロスで育ったピサリデス氏はイングランドに移住。英エセックス大学で学んだ。同大学で文学士号を 1970 年に、経済修士号を 1971 年に取得。その後 1973 年に、英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE) で博士号を取得した。